

探究活動の集大成披露

LGBTQ十などテーマに

札幌西陵高校（岩田努校長）の3年生は4日、総合的な探究の時間「SDGs 探究」の学習成果を発表した。各テーマの代表14班が1・2年生に向けて、LGBTQ十やアフリカの児童婚などの探究活動の集大成

を披露した。3年生296人は本年度、SDGsをテーマにした探究活動を展開。ことし2月に開かれた札幌大谷大学社会学部地域社会学科の丸山宏昌講師を招いたSDGs講演会を通じて、17の目標や取組について知見を広げた。



3年生の代表班が探究学習の成果をプレゼン

責任つつかう責任」、14番「海の豊かさを守ろう」、11番「住み続けられるまちづくりを」など得意順に上位7目標を採用し、クラスの垣根を越えて6人前後の班をつくった。

各班は、目標実現に向けた「企業・行政・大学の取組事例」「私たちにできそうなこと」という疑問をもとに、調べ学習や外部への取材を行い、自分の考えをまとめた。

探究活動の集大成となったこの日は、クラス内発表で選ばれた代表14班が、約10分間のプレゼンテーションに臨んだ。

目標の5番「ジェンダー平等を実現しよう」のもと「早すぎる結婚を知る」と

いう課題を設定したグループは、アフリカの児童婚について発表。国際NGOプラン・インターナショナルのCMを見て興味を持ったことをきっかけに、この課題を設定。同組織にインタビューを行ってスライド資料を作成した。

「早すぎる結婚と15歳以下で結婚を強要させられている現状を伝えたい。世界保健機関（WHO）やユニセフが実施した妊産婦死亡に関する調査結果などを引用し、早期妊娠のリスクや子育てに追われて教育を受けることができない問題があることなどを報告した。

同組織による寄付活動や支援実績に対する理解を深めるうちに、児童婚がもたらす問題を広く周知すること、法改正に向けて署名活動や提言を出すことの重要性を確認。「女性は学校に行かず、すぐ結婚するもの」という先入観をなくしていかなければならない」とし「自分たちができることか

ら頑張ろう」と訴えた。発表後、泉田悦宏教諭が「児童婚によって教育を受けられなかった子どもたちの今後の人生はどうなるか？」と問いかけた。「社会的知識を身に付けなければ金銭的格差に悩んだり単純労働を強いられる可能性がある」と助言した。